



笑顔いっぱい 夢いっぱい

郡山市立安積第三小学校
学校だより No.47
令和7年11月11日
文責：校長 酒井 健

◇郡山市 安積第二地区「少年の主張」コンクール表彰式・発表会

11月8日(土)、安積南公民館で、郡山市安積第二地区「少年の主張」コンクール表彰式・発表会が行われました。安積第三小学校からは2名、6年生の さん、5年生の さんが表彰式に参加し、そして自分の考えを、堂々と皆さんに主張することができました。



【最優秀賞】

6年 さん

「多様性と協調性」

「それぞれ」の「多様性」を受け入れると、「協調性」につながっていくことに気付いたさん。残り数か月の小学校生活で、「多様性」と「協調性」の大切さを、みんなに伝えていきたいと話してくれました。



【優 秀 賞】

5年 さん

「暑すぎる夏の怖い熱中症」

自分の体験から熱中症の怖さをあらためて調べようと思ったさん。家族のお話やネットで調べたことをもとに、熱中症に対する自分の考えをまとめることができました。みんなが命を守ることができるようにと話してくれました。

この発表会では、安積二小、安積二中の児童生徒さんも出席していました。皆さんも、本当にすばらしい発表でした。自分の考え、想い、願い・・・を聞いている方々にしっかりと伝えることができていました。聞いていて、私も感動いたしました。 さん、 さん、本当にお疲れさまでした。

校長のひとりごと

今から37年ほど前、平成元年度のお話です。この年、初任者として、私はいわき市の平駅の北側にある、大きな小学校に赴任しました。受け持ったクラスは5年2組、子どもたちは40人。

若き青年教師は、何事にも燃えていました。体育では、倒立前転の見本を見せ、休み時間は、校庭で、子どもたちと本気でドッジボールで遊び、放課後も特設合奏部で音楽指導にあたり・・・、授業では、子どもたちにとって楽しい授業、真剣に考えることができる授業を目指し、日々、奮闘していました。ある日のこと、図工で絵を描く授業で、ある女の子の絵を見て、何か物足りなさを感じた私は、「ここは、こんな風にするといいんじゃない」と絵に描き足してしまいました。

「よかれ」と思ってやったことは、実は、その女の子の意図しているものとは全然違うものでした。その後が大変でした。その女の子は泣き出すし、まわりにいた女の子たちは「〇〇ちゃん、かわいそ～」先生、なんで、そんなことしたんですか？」・・・。

何かやっている時の子どもたちは、自分の想いをしっかりとってやっているんだということを、この時、あらためて知りました。

この子どもたちを卒業させてから、16年後、この女の子の結婚式にご招待を受け、恩師としてスピーチも行いました。この「描き足し事件」のことも述べました。同席していた級友たちも「そんなこと・・・あった、あった・・・」。この時の子どもたちとの同級会も、いわき市で定期的に行っています。子どもたちも、今では48歳、みんなステキな大人になっています。自分にとって「子どもたちの本質」「子どもたちの心の声を聴くことの大切さ」をいろいろと教えてくれた子どもたち。教え子に逆に育ててもらったんだな～とも感じています。

「先生、なんか小さくなったね?」・・・いやいやいや、「みんなが、大きくなったんだよ」・・・でも、教え子って、私にとっては、いつまで経っても、かわいい少年・少女なんです。

